

国際ロータリー2610 地区高岡市近郊
8 ロータリークラブ共同プロジェクト

「高岡市歯と口腔の健康づくり推進プロジェクト
—永久歯むし歯予防事業—Ⅱ」

平成 29 年 8 月 30 日(水)午後 6 時 30 分～

高岡市ふれあい福祉センター 多目的ホール

国際ロータリー2610 地区高岡市近郊 8RC

(高岡 RC・高岡万葉 RC・高岡西 RC・高岡北 RC

射水 RC・新湊 RC・新湊中央 RC・東となみ RC)

式 次 第

(司会) 山本武夫(東となみ RC 直前会長：クラブ R 財団委員長)

1. 開会の挨拶

プロジェクト代表 村谷正芳(富山第3分区ガバナー補佐：高岡万葉 RC)

2. 教科書・絵本贈呈

① 高岡市小中学校様へ

② 高岡市幼稚園・保育園・認定こども園様へ

3. 来賓祝辞

富山県厚生部健康課 片岡照二郎 先生
高岡市福祉保健部 健康増進課長

あげみ
上見 弘昭 様

高岡市歯科医師会長 後藤 健 先生

4. 基調講演「県民歯と口の健康プラン」

富山県厚生部健康課 片岡照二郎 先生

5. 特別講演

「むし歯予防と適切なフッ化物応用」

日大元教授 小林清吾 先生

6. 閉会

「高岡市歯と口腔の健康づくり推進プロジェクト - 永久歯むし歯予防事業 - II」講演会実施要領

1. 趣旨

国は、高齢になっても美味しく物を食べられるよう、「8020(はちまるにいまる)運動」を呼び掛け、富山県でも、県民の歯と口腔の健康づくりのために「県民歯の健康プラン」を策定し、また、「富山県歯と口腔の健康づくり推進条例」を制定し、むし歯予防や歯周病予防を呼びかけています。中でも、効果が期待される小児期からのフッ化物によるむし歯予防を推奨しています。県内西部でも、砺波地区(砺波市・小矢部市・南砺市の全幼保・小中)では全施設、射水市では保育園や小学校の全施設で、フッ化物洗口が実施されており、高岡市では未実施の施設がほとんどで、将来にわたって、健康格差が心配されます。このため、県内西部のロータリークラブでは、高岡市の子供たちの将来を考え、フッ化物洗口を推進するための啓発普及に、支援するものであります。

2. 主催

国際ロータリー2610 地区高岡市近郊 8 ロータリークラブ(高岡 RC、高岡万葉 RC、高岡西 RC、高岡北 RC、新湊 RC、新湊中央 RC、射水 RC、東となみ RC)

3. 後援

富山県、高岡市、富山県歯科医師会、高岡市歯科医師会

4. 協賛

富山むし歯予防フッ素推進市民ネットワーク【And You(あゆ) の会】

5. 日時

平成 29 年 8 月 30 日(水)午後 6 時 30 分～8 時 30 分

6. 場所

高岡市ふれあい福祉センター 多目的ホール

【〒933-0935 高岡市博労本町 4-1 TEL 0766-21-7888】

7. 参加者

高岡市内保育園・幼稚園および小学校の 歯科保健担当者、および父兄・一般市民、市行政担当者、歯科医師・歯科衛生士

8. 内容：講演テーマ「フッ化物による永久歯むし歯予防」

(1) 基調講演「県民歯と口の健康プラン」

富山県厚生部健康課 片岡照二郎 先生

(2) 特別講演「むし歯予防と適切なフッ化物応用」

日本大学松戸歯学部 元教授 小林清吾先生

9. 参加費

無料

【尚、当講演会は、2017-2018 年度ロータリー財団地区補助金申請プロジェクト「高岡市園児・児童むし歯予防保健教育」の中の事業です】

*講演テーマ「フッ化物による永久歯むし歯予防」

(1) 基調講演「県民歯と口の健康プラン」

富山県厚生部健康課 片岡 照二郎

*内容については、添付の講演スライド抄録をご参照下さい。

○ 「県民歯と口の健康プラン」とは？

○ 富山県における歯科口腔保健の取組み

【経歴】

氏名：片岡 照二郎（かたおか しょうじろう）

平成 7年 新潟大学歯学部入学

平成 13年 新潟大学歯学部卒業、新潟大学大学院入学

平成 17年 新潟大学大学院卒業

平成 17年 富山県厚生部健康課母子・歯科保健係に所属
以降、歯科保健等の担当として業務に従事

【その後の主な出来事】

平成 25年 「富山県歯と口腔の健康づくり推進条例」の制定

「県民歯と口の健康プラン」の策定

「富山県口腔保健支援センター」の設置

(資料)富山県歯と口腔の健康づくり推進条例

富山県歯と口腔の健康づくり推進条例の概要 (H25年9月30日可決・公布・施行)

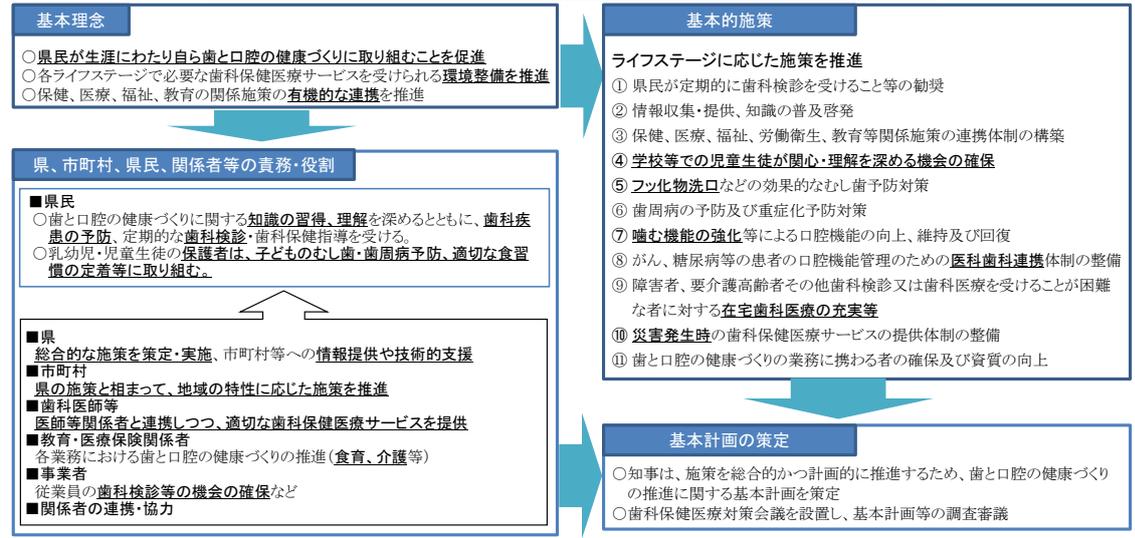
条例制定の目的

○歯と口腔の健康は、県民が健康で質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割を果たす
 ○高齢化の進展等に伴い、生涯を通じた歯科保健、障害者・要介護高齢者等への支援、地域間での差異の解消などが課題
 ○県民が年齢、心身等の状況、居住する地域にかかわらず歯科保健サービスを受ける環境の整備、県民一人一人の取組みを促進

(例)食べる喜び・話す楽しみ等のQOLの向上、栄養状態の改善、誤嚥性肺炎の予防、糖尿病合併症の予防・改善等、全身の健康の保持増進に大変重要

歯と口腔の健康づくりの基本的な考え方を明らかにし、県民の理解を深め、関係者の連携協力の下、県民が一体となって推進する

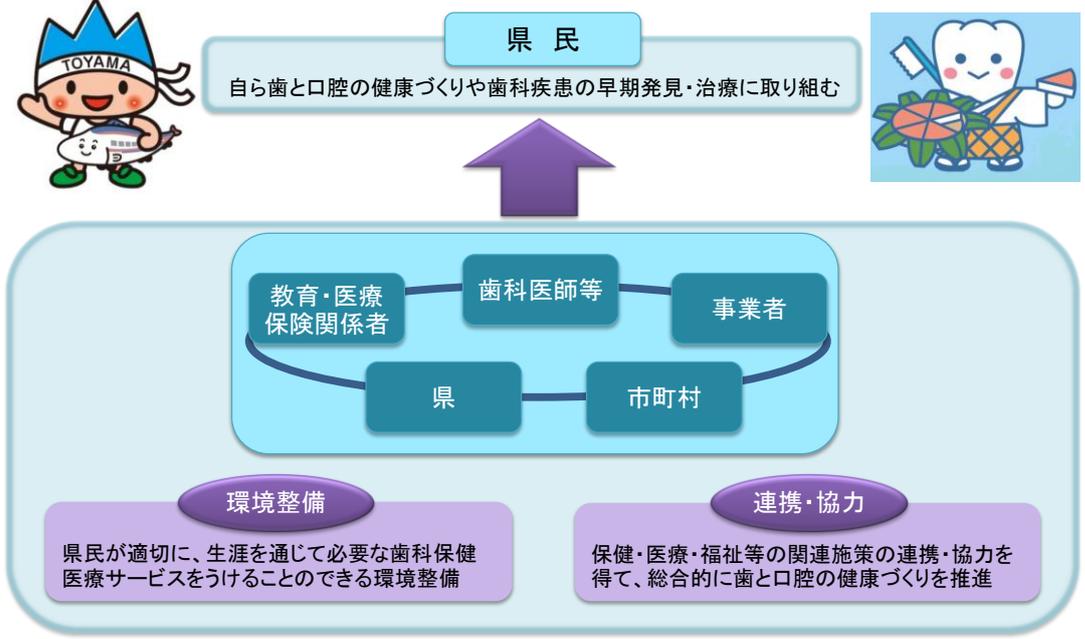
このため、本条例では、以下の内容を定め、県民の歯と口腔の健康づくりを推進



(資料) 県民歯と口の健康プラン

県民歯と口の健康プラン
(H25~34年)

生涯を通じた口腔の健康及び口腔機能の維持・向上の観点から「9020運動」さらに推進



(県民歯と口の健康プラン(全体版)は、県のホームページに掲載しています。)

基本方針と主な施策

歯科疾患の予防		○県民への歯科疾患の成り立ち及び予防方法の普及啓発 ○健康を増進する一次予防に重点をおいた対策	
・市町村でのフッ化物歯面塗布の実施や育児教室等での歯科保健指導の充実 ・母子保健担当が保護者へ適切な間食方法を普及啓発するためのマニュアル作成 ・保育所・幼稚園でのフッ化物洗口の推進 乳幼児期	・歯周病予防のための歯間部清掃器具の使用の普及啓発 ・養護教諭・保健師等が保健指導に併せて歯科保健指導を行うための研修の実施 ・小学校・中学校でのフッ化物洗口の推進 学齢期	・市町村での歯周疾患検診や妊婦歯科健診、事業所での歯科健診の推進 ・歯周病と糖尿病などの全身の健康に関する普及啓発や医科歯科連携等の推進 成人期	・根面むし歯予防の観点からフッ化物の利用の普及啓発 ・がん患者等の口腔機能管理のための地域連携体制の整備 高齢期

ライフステージごとの特性等を踏まえ、生涯を通じた切れ目のない歯科口腔保健対策の推進

口腔機能の獲得・維持・向上 ○摂食、咀嚼、嚥下などの口腔機能は食べる喜びや話す楽しみ等の生活の質(QOL)の向上を図るために重要

乳幼児期及び学齢期	成人期及び高齢期
・「食べ方」に視点を置いた普及啓発や研修等の実施 ・カミング30推進事業など、学校との連携を図り、かむ機能の強化対策を実施	・富山の食材を活用するなど、かむ機能の重要性の効果的なPR ・在宅歯科医療等の医科歯科連携や歯科医療機関と関係機関との連携の体制整備

要介護者、障害（児）者等への歯科口腔保健の推進 ○在宅歯科医療を提供する体制の整備を図るなど、周囲の支援者が連携することが重要

在宅医療に関わる医師、ケアマネジャーや訪問介護・看護職員と歯科医師・歯科衛生士の地域連携
 在宅歯科医療を提供する歯科医師・歯科衛生士の育成や機器の整備
 新たな総合リハビリテーション病院・子ども医療福祉センター（仮称）での歯科診療（小児含む）の充実

災害発生時の歯科口腔保健医療対策 ○誤嚥性肺炎の予防のため、避難所生活での健康管理の一環として口腔ケアの取組みを推進することが重要

誤嚥性肺炎の防止等のための避難所生活での口腔ケアの推進体制の整備

歯科口腔保健の推進を支える環境整備 ○県民の主体的な取組みを支援するために、県民に対する的確な情報提供が重要

6月4日からの「歯と口の健康週間」や「いい歯の日（11月8日）表彰式」などでの普及啓発
 歯科口腔保健に関する取組状況や各種統計情報の公表
 多様化する歯科保健医療ニーズに適切に対応できる歯科専門職の育成

県民が取り組むこと

県民一人ひとりの意識と行動が基本です。主に以下のことに気をつけましょう。

定期的に歯科検診の受診や歯科保健指導を受けることなど、生涯にわたり日常生活において口腔の健康の保持のための取組みを実践しましょう	乳幼児や児童生徒の保護者は家庭において、子どものむし歯や歯周病の予防、適切な食習慣の定着などに取り組みましょう	歯科疾患、かむ機能などの口腔機能が全身の健康に及ぼす影響など、歯と口の健康づくりに関する知識を深めましょう
--	---	---

歯と口の健康づくりの関係者が取り組むこと

歯科医師等の歯科専門職、医師、保健師、栄養士、教職員、介護職員等の歯と口の健康づくりを担う関係者がお互いに連携・協力し、県民へ支援することが必要です。

(2) 特別講演「むし歯予防と適切なフッ化物利用」

元日大教授 小林清吾先生

*内容については、添付の講演スライド抄録をご参照下さい。

(御略歴) 小林 清吾 先生 : 昭和 21 年 8 月 19 日生 年齢 71 歳

《現 職》なし: 元日本大学松戸歯学部教授

NPO 法人日本フッ化物むし歯予防協会 理事

《専門分野》 公衆予防歯科学 歯学博士

《履 歴》

昭和 46 年 3 月 新潟大学歯学部卒業

昭和 46 年 4 月 新潟大学助手 (歯学部付属病院予防歯科)

昭和 57 年 6 月 歯学博士 (新潟大学)

昭和 57 年 10 月 長崎大学助教授 (歯学部予防歯科学講座)

昭和 62 年 11 月 新潟大学助教授 (歯学部予防歯科学講座)

平成 5 年 9 月～ 6 年 10 月 NIDR/NIH (米国歯学研究所) 客員研究員

平成 8 年 5 月～ 8 年 8 月 アデレード大学 (オーストラリア) にて海外研修

平成 9 年 2 月 アデレード大学 (オーストラリア) にて海外研修

平成 10 年 4 月～24 年 3 月 日本大学教授 (松戸歯学部衛生学教室)、公衆予防歯科学講座に改名

平成 12 年 10 月～16 年 3 月 日本大学松戸歯学部附属歯科衛生専門学校校長

平成 13 年 4 月～17 年 3 月 日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会委員長

平成 17 年 4 月 日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会委員 現在に至る。

平成 21 年 4 月～24 年 3 月 口腔科学研究所 所長 (日本大学松戸歯学部)

平成 13 年 4 月 薬事・食品衛生審議会・専門委員 現在に至る。

平成 24 年 4 月～28 年 3 月 日本大学客員教授

<最近の研究テーマ>

- | | |
|-------------------|----------|
| 1 歯科疾患の疫学 | 2 むし歯診断法 |
| 3 フッ化物応用によるむし歯予防法 | 4 地域保健 |

<学会活動>

日本口腔衛生学会、日大口腔科学会、APHA [American Public Health Association]、AAPHD [American Association of Public Health Dentistry]、AAPD [Asian Academy of Public Dentistry] 他

<著作・研究発表>

著書: 「分かりやすいフッ素の応用と広め方」(共著)、「口腔保健のためのフッ化物応用ガイドブック」(共著)、「新予防歯科学」(共著)、「フッ化物応用と健康」(共著)、「シンプル衛生・公衆衛生」(共著)、「フッ素で始めるむし歯予防」(共著)、「フロリデーション・ファクト 2005 (翻訳)」(共著)、「水道水フロリデーション」(共著)等

【このプロジェクトの目指すところ】

国際ロータリー2610 地区高岡市近郊 8 ロータリークラブ共同プロジェクト

「高岡市歯と口腔の健康づくり—永久歯むし歯予防啓発普及事業—Ⅱ」

(概要) 国が出している「フッ化物洗口ガイドライン」や、富山県歯と口腔の健康づくり推進条例の中で推奨しているフッ化物によるむし歯予防推進の啓発普及

(意義) 県内でも、砺波地区においてはフッ化物洗口が広く実施されているが、高岡市内では、あまり実施されていない。現在も少しみられるが将来にわたって、更なる健康格差が懸念される。これらの是正が、住民の健康寿命の延伸に結びつくものである。

(ポイント) ロータリークラブが行う意味

1. 本来、ロータリークラブは1クラブ単独で活動を行うが、昨今 RI は多クラブ合同の活動を推奨してきている。「健康」を取りあげる活動が、1地域だけでなく、県内の多くの地域、または全体、あるいは日本全体、または、全世界にまで、発展する可能性のある場合、多くのクラブで共同プロジェクトを行う必要性が見いだせる。・・・過去の例：アイドリングストップ運動、ポリオ撲滅運動
2. 全身の健康づくりの基本は、美味しく物を食べること。その源になる歯と口腔の健康づくりは、大変重要で、むし歯予防は歯周病予防と併せて、歯を健康に保つことに繋がる。国は80歳で20本以上の歯を保とうという「8020 運動」を推進しているが、高齢者で歯をたくさん維持できる人に健康な人が多い。WHO(世界保健機関)が推奨している、EBM(根拠に基づく医療)に優れたフッ化物によるむし歯予防を若いうちから実践していくことが大切である。こういう真実が、まだまだ社会に伝えられていない。「四つのテスト」にある様に、真実であること、みんなに公平なこと、好意と友情を深めること、みんなのためになること、であるこの事業を、ロータリークラブは推進すべきである。
3. このフッ化物洗口事業は、富山県歯科医師会や富山県が推奨しており、各クラブの歯科医師ロータリアンも了解している。特に、高岡市歯科医師会は、昨年からの公立・私立保育園の実施に向けて、協力をしている。また、次年度以降も続いて、小中学校への広がりを教育委員会に働きかける援助を希望している。
4. この事業の延長上にあるのは、将来富山県内、まずはとなみ野での、すべての住民が公平にむし歯予防が期待できる「水道水フッ化物添加事業」である。南砺市では、市議が、横須賀基地の施設を訪問したりして研修をしている。世界では、最も優れた方策のこの事業を多くの国(60カ国以上)が取り入れており、日本では実施していないこのすぐれた事業をロータリークラブがこの地域がリードし、日本中に展開する可能性もある。

(文責) 山本武夫：東となみロータリークラブ R 財団委員長

連絡先：東となみロータリークラブ R 財団委員長 (2016-17 年度会長)

富山むし歯予防フッ素推進市民ネットワーク 代表 山本武夫

(URL <http://www.f-take.com/andyou.htm> E-mail: ygmt@f-take.com)

〒932-0231 南砺市山見 1134-1 TEL 0763-82-5323 FAX 0763-82-6695